(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第4481380号
(P4481380)
(45)発行日　平成22年6月16日(2010.6.16)　(24)登録日　平成22年3月26日(2010.3.26)

(51)Int.Cl.　F I
A47F 9/00 (2006.01)　A47F 9/00 Z

請求項の数 3　(全 8 頁)

(21)出願番号　特願平11-73594
(22)出願日　平成11年3月18日(1999.3.18)
(65)公開番号　特開2000-262362(P2000-262362A)
(43)公開日　平成12年9月26日(2000.9.26)
審査請求日　平成18年3月10日(2006.3.10)

特許法第３０条第１項適用　１９９８年１２月２日　株式会社岡村製作所発行のカタログ「オカムラ総合カタログ１９９９年度版」に発表

(73)特許権者　000000561
株式会社岡村製作所
神奈川県横浜市西区北幸２丁目７番１８号
(74)代理人　100098729
弁理士　重信　和男
(72)発明者　高村　昭宏
神奈川県横浜市西区北幸二丁目７番１８号
株式会社岡村製作所内

審査官　大谷　光司

最終頁に続く

(54)【発明の名称】受付用カウンター

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
屈曲部を有することにより、上面視略Ｌ字形をなすようにした天板を備え、該天板の長手方向の一側が受付人の作業スペースに、屈曲部を介して他側が来客人の受付スペースとになっている受付用カウンターにおいて
前記天板は、前記屈曲部から受付スペース側の端部に向かって幅広になるように形成され、前記屈曲部下面にコーナー部材が設けられていると共に、前記受付スペース側天板の下方の覆板が、一方の端部がコーナー部材の内側面における外端に当接されて、天板の外側縁寄りに位置し、他方の端部が受付スペース側の端部下面の前後方向略中央部に向かって受付スペースの天板下方の空間を来客エリアと作業エリアに二分するように配設されていることを特徴とした受付用カウンター。
【請求項２】
前記天板の長手方向の両端側に、天板の下方空間の側面を覆う側面板が設けられている請求項１に記載の受付用カウンター。
【請求項３】
前記作業スペース側の天板下方位置に、作業台が設けられている請求項１または２に記載の受付用カウンター。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】

本発明は、例えば図書館や病院等にて使用される受付用カウンターに関する。
【０００２】
【従来の技術】
従来より、図書館や病院等の受付に設置される受付用カウンターとしては、例えば図５に示されるような横長のカウンターがあり、受付人の作業エリアＡ’と来客エリアＢ’とを区画するように設置されている。天板０１の下方には、覆板０２が長手方向に延びるように設けられており、来客人エリアＢ’側から作業エリアＡ’側の天板０１の下方が見えないようになっている。
【０００３】
【発明が解決しようとする課題】
しかしながら、前述のような受付用カウンターにあっては、特に来客人が椅子に座って応対を受けたり、車椅子等で来客する場合に、来客人の足が覆板０２に当たりやすく、邪魔になるという問題があった。
【０００４】
また、このような問題をなくすために覆板０２を天板０１下方の中央寄りに配置すると、覆板０２を天板０１下方の中央寄りに配置すると、受付人の受付スペースにおける作業エリアが十分に確保出来ないという問題があった。
【０００５】
本発明は、このような問題点に着目してなされたもので、受付人の使用性が高く、かつ受付人と来客人の対話が行いやすい受付用カウンターを提供することを目的としている。
【０００６】
【課題を解決するための手段】
上記の目的を達成するために、本発明の受付用カウンターは、屈曲部を有することにより、上面視略Ｌ字形をなすようにした天板を備え、該天板の長手方向の一側が受付人の作業スペースに、屈曲部を介して他側が来客人の受付スペースとになっている受付用カウンターにおいて
前記天板は、前記屈曲部から受付スペース側の端部に向かって幅広になるように形成され、前記屈曲部下面にコーナー部材が設けられていると共に、前記受付スペース側天板の下方の覆板が、一方の端部がコーナー部材の内側面における外端に当接されて、天板の外側縁寄りに位置し、他方の端部が受付スペース側の端部下面の前後方向略中央部に向かって受付スペースの天板下方の空間を来客エリアと作業エリアに二分するように配設されていることを特徴とした受付用カウンター。
特徴としている。
この特徴によれば、天板の長手方向の一端側に設けられる作業スペースにおける天板下方には、受付人の使用する椅子やコンピューター等を収納したり、受付人の足が入れられる広い空間が形成され、受付人の使用性が高まるとともに、他端側の受付スペースにおける天板下方の覆板内側には、受付人の足が入れられる空間が、また、覆板外側には、来客人の足や、車椅子を使用する来客人の足が入れられる空間がそれぞれ形成されるため、受付人と来客人の対話が行いやすくなる。更に受付スペースのコーナー部材近傍に受付人の足が入れられる広い空間を確保することが出来る。
【０００９】
本発明の受付用カウンターは、前記天板の長手方向の両端側に、天板の下方空間の側面を覆う側板が設けられていることが好ましい。
このようにすれば、カウンター側方の外観の体裁が向上する。
【００１０】
本発明の受付用カウンターは、前記作業スペース側の天板下方位置に、作業台が設けられていることが好ましい。
このようにすれば、受付人の書類やパソコンのキーボードが、来客人に露呈することがないので、見映えが良くなる。
【００１１】

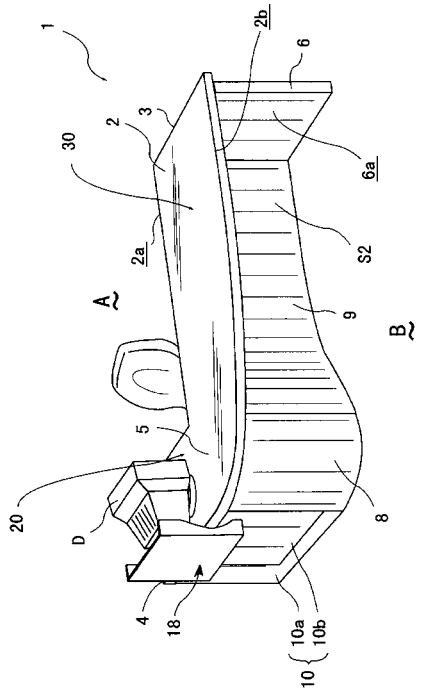
【発明の実施の形態】
以下、本発明の実施例を図面に基づいて説明すると、図１、２には例えば図書館や病院等にて使用される上面視略Ｌ字形の受付用カウンターが示されている。このカウンター１は、作業エリアＡと来客エリアＢとを区画するように設置されるものであり、本実施例においては、図１中左側が受付人の作業スペース２０として利用され、右側が来客人に対する受付スペース３０として利用されるようになっている。
【００１２】
図２に示されるように、カウンター１の上部に設置される天板２は、屈曲部５から受付スペース３０側の端部３に向かって幅広になるように形成されている。
【００１３】
天板２における受付スペース３０側の端部３の下面には側板６が、作業スペース２０側の端部４の下面には側板７が設けられるとともに、屈曲部５の下面にはコーナー部材８が設けられている。
【００１４】
天板２の下面におけるコーナー部材８の内側面８ａと側板６の内面６ａとの間には、一方の端部がコーナー部材８の内側面８ａにおける外端に当接されて、天板２の外側縁２ｂ寄りに位置し、他方の端部が側板６の内面６ａの前後方向略中央部に当接される覆板９が設けられている。
【００１５】
また、天板２の下面におけるコーナー部材８の内側面８ｂと側板７との間には、覆板１０が天板２の外側縁２ｂに沿うように設けられている。
【００１６】
このように、天板２の下方は、側板６、覆板９、コーナー部材８、覆板１０、側板７により支持されているとともに、覆板９、１０及びコーナー部材８により、天板２の下方の空間が来客エリアＢ側と作業エリアＡ側とに区画され、来客エリアＢ側から作業エリアＡ側の下方が見えないようになっている。よって、受付スペース３０側の天板２の下方は、覆板９を挟んで、作業エリアＡ側に開放する空間Ｓ１と、来客エリアＢ側に開放する空間Ｓ２とがそれぞれ形成されるとともに、作業スペース２０側の天板２の下方には、作業エリアＡ側に空間Ｓ３が形成されている。
【００１７】
図３、４に示されるように、天板２の作業スペース２０側にはディスプレイＤが載置されるとともに、その下方の空間Ｓ３に設けられた棚１２には、パソコン本体Ｐを収納出来るようになっている。また、天板２の下方位置には、先端が内側縁２ａより突出するように作業台１３が設けられており、その上面にキーボードＫやマウスＭを配置出来るようになっている。
【００１８】
覆板１０は固定板１０ａと開閉板１０ｂに分割されており、開閉板１０ｂは、仕切板１５の内面に取り付けられた蝶番１６を介して開閉自在に取り付けられており、開閉板１０ｂを開閉することで、空間Ｓ３内が来客エリアＢ側に開放されるようになっている。また、開閉板１０ｂの上部中央には開口１７が形成されており、この開口１７に配線コードＣが挿通されるようになっている。
【００１９】
ディスプレイＤ後方には、開口がこのディスプレイＤ側を向く上面視略コ字形のカバー部材１８が設けられており、ディスプレイＤから延びる配線コードＣ及びディスプレイＤの背面部が隠れるようになっている。
【００２０】
このように構成された本実施例の受付用カウンター１にあっては、作業スペース２０側の天板２の下方の覆板１０が、天板２の外側縁２ｂに沿うように設けられているため、パソコン本体Ｐを収納したり、受付人の足が入れられる広い空間Ｓ３が確保され、作業が行いやすくなっている。

【００２１】
また、受付スペース３０側の天板２の下方の空間を、作業エリアＡ側に開放する空間Ｓ１と来客エリアＢ側に開放する空間Ｓ２とに二分するように覆板９が設けられているので、覆板９を挟んで作業エリアＡ側における天板２の下方には、受付人の足が入れられる空間Ｓ１が、また、来客エリアＢ側における天板２の下方には、来客人の足や、身障者用の車椅子の挿入が可能な空間Ｓ２がそれぞれ形成されるため、受付人と来客人の対話が行いやすくなる。
【００２２】
また、本実施例の受付用カウンターのように、天板２が、上面視略Ｌ字形に形成されていると、作業スペース２０と受付スペース３０とが近くに位置するので、受付人は大きく移動することなく、受付業務と作業を行える。
【００２３】
また、天板２を屈曲部５から受付スペース３０側の端部３に向かって幅広になるように形成すれば、受付スペース３０側の天板２下方における覆板９の作業エリアＡ側及び来客エリアＢ側に、空間Ｓ１、Ｓ２をそれぞれ形成出来る。
【００２４】
また、天板２の両端部３、４の下方を覆うように側板６、７が設けられているので、カウンター１の側方にいる来客人からは作業エリアＡの下方が見えない。
【００２５】
また、作業台１３が天板２よりも下方位置に設けられているので、キーボードＫやマウスＭが来客人に露呈することがない。
【００２６】
以上、本発明の実施形態を図面に基づいて説明してきたが、具体的な構成はこれら実施形態に限られるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲における変更や追加があっても本発明に含まれる。
【００２７】
例えば、本実施例における空間Ｓ３は、パソコンの収納スペースとして利用されているが、その利用方法は任意であり、例えば書類の収納庫として利用しても良い。
【００２８】
また、覆板９は、空間Ｓ１の大きさと空間Ｓ２の大きさとがほぼ同じになるように配置されているが、Ｓ１、Ｓ２のいづれか一方の空間が他方の空間よりも大きくなるように配置されても良い。
【００２９】
【発明の効果】
本発明は以下の効果を奏する。
【００３０】
（ａ）請求項１項の発明によれば、天板の長手方向の一端側に設けられる作業スペースにおける天板下方には、受付人の使用する椅子やコンピューター等を収納したり、受付人の足が入れられる広い空間が形成され、受付人の使用性が高まるとともに、他端側の受付スペースにおける天板下方の覆板内側には、受付人の足が入れられる空間が、また、覆板外側には、来客人の足や、車椅子を使用する来客人の足が入れられる空間がそれぞれ形成されるため、受付人と来客人の対話が行いやすくなる。更に受付スペースのコーナー部材近傍に受付人の足が入れられる広い空間を確保することが出来る。
【００３３】
（ｂ）請求項２項の発明によれば、カウンター側方の外観の体裁が向上する。
【００３４】
（ｃ）請求項３項の発明によれば、受付人の書類やパソコンのキーボードが、来客人に露呈することがないので、見映えがよくなる。
【００３５】
【図面の簡単な説明】

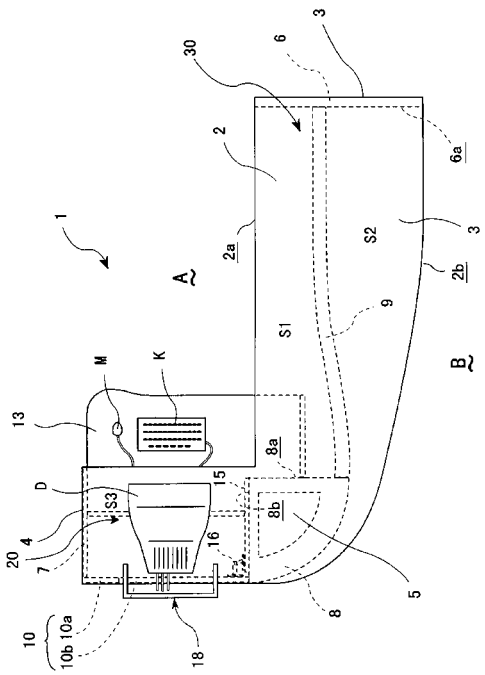
【図１】本発明の実施例における受付用カウンターを示す全体斜視図である。
【図２】図１における受付用カウンターの上面図である。
【図３】図１における受付用カウンターの開閉板を開いた状態を示す斜視図である。
【図４】図１における受付用カウンターの作業スペースの断面図である。
【図５】本発明の従来の受付用カウンターを示す前方斜視図である。
【符号の説明】

１	受付用カウンター
２	天板
２ａ	内側縁
２ｂ	外側縁
３、４	端部
５	屈曲部
６、７	側板
６ａ	内面
８	コーナー部材（覆板）
８ａ、８ｂ	内側面
９、１０	覆板
１０ａ	固定板
１０ｂ	開閉板
１２	棚
１３	作業台
１５	仕切板
１６	蝶番
１７	開口
１８	カバー部材
２０	作業スペース
３０	受付スペース
Ｓ１、Ｓ２、Ｓ３	空間
Ｃ	配線コード
Ｄ	ディスプレイ
Ｋ	キーボード
Ｍ	マウス
Ｐ	パソコン本体

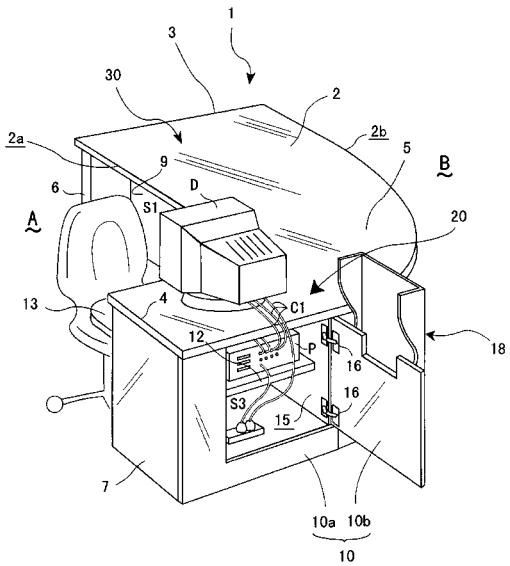
【図１】


1
2b
6
3
2
30
6a
2a
S2
A
B
9
5
20
D
8
4
18
10a
10b
10

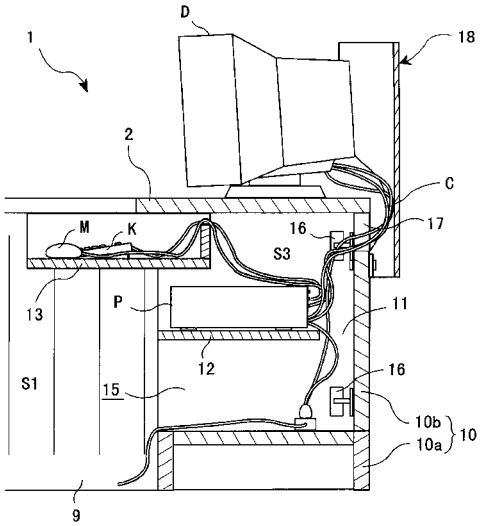
【図２】


30
6
3
2
6a
1
2a
S2
3
A
S1
2b
9
B
M
K
13
8a
D
15
S3
8b
4
16
20
7
5
8
10
10b
10a
18

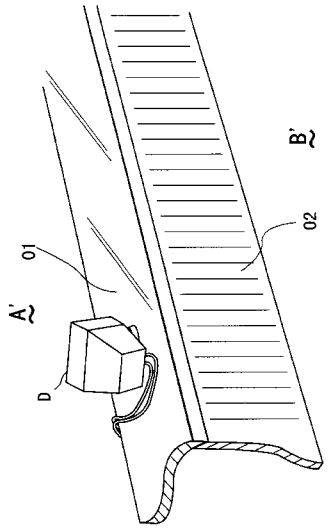
【図３】


1
3
30
2
2a
2b
5
B
9
6
D
S1
A
20
13
4
C1
12
P
18
16
S3
16
15
7
10a
10b
10

【図４】


D
1
18
2
C
M
K
16
17
S3
13
P
11
12
S1
15
16
10b
10
10a
9

【図５】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平０１－１１５３０３（ＪＰ，Ａ）
実開昭４８－００６００４（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５８－０９８８３０（ＪＰ，Ｕ）
実開昭６３－０９３８３４（ＪＰ，Ｕ）
特開平０６－０３８８４４（ＪＰ，Ａ）
実開平０５－０１３２３４（ＪＰ，Ｕ）
特開平０５－２１１９３１（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
A47B1/00-41/06
A47F9/00